

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
4	高橋 正典（21）	<p>1. 富士川かりがね橋供用開始後の市道整備などについて 富士川かりがね橋は、今年度中の供用開始を目指し工事が進められているところである。</p> <p>県道富士由比線に架橋された富士川橋は、日量2万6000台の車両が行き交う橋であり、この橋の東西で慢性的な交通渋滞を起こしていることから、この上流右岸側の富士川地区は木島地先、左岸側の岩松地区は上町地先に富士川かりがね橋が静岡県の施工により架橋されることになり、本市としてもこれに合わせ、市道の整備が粛々と進められているところである。</p> <p>新橋架橋により、日量1万3000台の車両が岩松地区に出入りすることが容易に予測され、市道五味島岩本線、四ツ家交差点の改良工事が施工されている最中である。さらに、市道中島林町線に至っては、四ツ家交差点の南に当たる浦町交差点の改良工事も施工されているのである。</p> <p>新橋開通後の交通体系が劇的に変わることにより、子供たちの通学路の整備をはじめ様々な視点から周辺市道を見直すべきとの思いで、以下伺う。</p> <p>(1) 四ツ家交差点から市道田子浦鷹岡線を南下し、富士由比線との交差部が橋下交差点になるが、この付近の恒常的な混雑状況をどのように捉えているか伺う。</p> <p>(2) 富士川かりがね橋東側の交差点から県道鷹岡柚木線を南下すると市道水神林町線が交差する。これを西進すると富士由比線に架かる富士川橋の西側交差点に出るが、この水神林町線の幅員が狭い。交通量の変化を考慮し、拡幅を検討すべきだと思うが計画について伺う。</p> <p>(3) 鷹岡柚木線から岩松小学校に差しかかると分岐し、中島林町線になるが、こちら方面に流入する車両が増加することが予測される。ここは小学生の通学路になっており、道路幅員に狭隘箇所があるので、子供たちが交通事故に巻き込まれる危険性が高い。道路整備の計画はどのようなになっているか伺う。</p> <p>(4) 富士川かりがね橋の供用開始に合わせた市道の見直し、検討とは少々異なるが、富士川橋が架橋されたのが大正13年で、来年で100年になる。また、富士川かりがね橋が開通し、これを開通元年とするならば、これに併せ、記念式典なるものを考えてもよいのではないか。県道ゆえに静岡県で考えるべきことと捉えずに、県のほうに働きかけるなど市としてのアクションを期待するが、いかがか。</p>	市長 及び 担当部長